

患者様には常にわかりやすい言葉やパンフレット等を用いて医療上の情報を提供し、当院で安心して医療が受けられるように最大限の配慮を行う。

・リスク・マネジメント

全職員が与えられた役割の中で医療人として自覚を持ち、技術の研鑽に努力する。またリスク・マネジメントシステムを確立し安全な医療・看護の提供に努める。

2) 経営方針

- ①患者様を選ぶことなく、何方でも受け入れる。
- ②患者様の信頼に応える分野に重点的に資金を投入する。
- ③比較的廉価な費用での診療を実現する。
- ④救護活動・国際支援活動を積極的に展開し、赤十字病院としての使命を達成する。

2. 現状報告

1) 院内ソフトとハード面のサービス充実

社員教育

2日間コース 年1回開催

全職員対象に、クランケ（お客様）に対する挨拶1つから、様々な待遇サービスのノウハウをエアリーアテンダー教育機関の講師から研修をうける。

2) 経営実績（平成14年度）

総収入 20億円 総費用 19億円

収支差額 1億円

収入内訳 入院 16億円（産婦人科 11億円、小児科 5億円）

外来 4億円（産婦人科 3億円、小児科 1億円）

費用内訳 人件費 13億円

材料費 2億円

経費 2億円

その他 2億円

*小児科は、外来とNICU・GCUであり、赤字となっていて産婦人科の収益を投じて運営している。

3) 広報事業

出産のヒューマニゼーション研究会

当院の産科のDrが中心となって立ち上げた研究会。

人間性を根ざした出産に関する総合的、専門的研究の推進と、知識および技術の向上と普及を図り、もって女性の健康維持と母性の発達に貢献することを目的としている。会の運営などは事務や看護部が中心となって毎年行なわれている。

第1回：00.11

テーマ／出産のヒューマニゼーション

場所：東京女子医科大学弥生記念講堂

第2回：01.11.23

テーマ／EBMと出産のヒューマニゼーション

場所：東京女子医科大学弥生記念講堂

第3回：02.11.23

テーマ／変革へのチャレンジ

場所：JA ホール（東京・大手町）

第4回：03.11.23

テーマ／施設づくりの成功条件としてのヒューマニゼーション

—経営学者 飯田 史彦氏をむかえて—

場所：新宿安田生命ホール

出産10万件突破企画

（去る6月9日（月）、当院が昭和28年に開設以来、出産数が10万人に達しました）

～「俳句でつづる母と子のメッセージ」を募集～

審査員：藤田 三保子氏（俳優、画家、俳人）
きくちさかえ氏（マタニティーコーディネーター、写真家）

進 純郎（葛飾赤十字産院院長）

三石 知左子（葛飾赤十字産院副院長）

山本 正人（葛飾赤十字産院事務部長）

舛森 とも子（葛飾赤十字産院看護部長）

4000句が寄せられ、1等10万円をはじめとする賞金。大盛況のうちに終わった。

3. 今後の課題

出産件数の増加により、黒字決算である訳だが、各科の本来の医療サービスの他に多彩なサービス展開をしている為、人材の確保が

望まれる。

4. 山本事務部長より

医療は、サービス業と言い切り、患者様に対して多彩なニーズにこたえるというのが第一。医療的部分は、各科の専門スタッフに任せ、その他もろもろの施設ハード面や接客などの細かなサービス充実に努めている。

特にクレームには、即対応し、各科のスタッフとも協力して改善に向け努力している。

VIII まとめ

～産院における妊婦と家族の各時期におけるケア～

図Aのように、妊娠してから、産前教育や外来での検診をはじめとする各種ケアを受け、リスクケースについては、カウンセラーや福祉相談員と連携して、産婦に合ったケアを行なっている。

分娩期には、母子の状況により、小児科医師やカウンセラー、看護師、助産師のケアが受けられる。又、保健所への情報提供などリスクケースマネジメントも行なわれている。

産後は、母子検診の時期をずらして、母子の産褥期におこりうる問題の早期発見に努めている。産科医、小児科医、助産師、カウンセラーなどと、身体的と精神的の問題に関しても対処可能なスタッフをそろえケアにあたっている。

また、産後の母子とその家族へ産褥期各種クラスに参加を促すことにより、育児相談は

もとより、孤立した育児にならぬよう配慮されている。

そして、図Bのように、安全で室の高いケアの為に、各種関係機関との連携を行っており、地域に根付いたプライマリケアを行うように、つとめている。

各科の医師、看護師、助産師、理学療法士（小児科）、福祉相談員、臨床心理士などが連携をとって、今後地域に繋げていく強化を目指して、スタッフの充実を図っている。

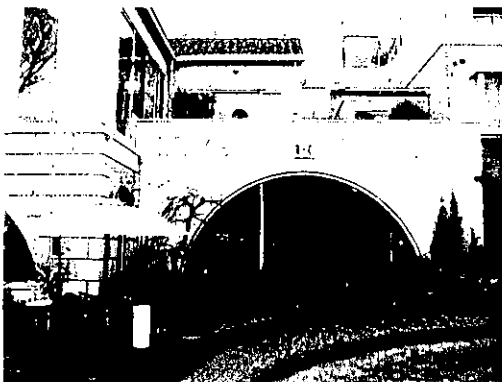
分担研究報告書

地域における出産ケアモデル施設の調査報告

調査日： 平成16年1月30日
調査先： 三宅医院（岡山県）

要 旨：「少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言に関する研究」における出産ケアモデルとなる施設調査として、岡山県岡山市の産科婦人科医院、三宅医院を訪問し、インタビュー形式で調査を行った。三宅医院は年間の出産件数が約1,000件と岡山県一の実績と知名度のある医院である。産科婦人科の他に小児科、形成外科、不妊治療、内科、眼科、皮膚科、歯科（一般・小児・矯正）を併設し、患者のあらゆるニーズに応えられるメディカル・ディズニーランドを目指している。その中で、つねに患者の身近に存在し、患者中心の医療をするという方針から周産期からの継続医療を実施している。以下に、継続医療の実態とそれを支える経営手法について報告する。

I. 病院



1. 理念

三宅医院は1980年（昭和55年）に産科婦人科有床診療所として開業し、以来、23年の歴史を持つ。経営の理念は、「健康としあわせづくりに限りなく奉仕する」ことであり、「メディカル・ディズニーランド」（資料1）を目指している。メディカル・ディズニーラ

ンドとは、「いつも明るく楽しそうで元気になるドリームランド」、「赤ちゃんからお年寄りまでの健康と幸せを考えるテーマパーク」である。つまり、医療はサービス業であると位置付け、顧客である患者の満足を第一とする経営理念を掲げている。従って、赤ちゃんからお年寄りまで、トータルライフをサポートする目的で継続医療を目指しており、そのなかでも出産と育児支援を通して社会に奉仕する事を経営のコアとしている。

2. 特色

妊娠・出産期の女性のニーズに応えることを出発点にして、一生涯のかかりつけ医になるという事から、敷地内5棟の建物のうち、正面の建物に、三宅医院として産科婦人科、

小児科、形成外科、生殖医療センター、そして左手の別棟に岡山大福クリニックとして内科、循環器科、消化器科、眼科、皮膚科、右手の2階建ての建物にハロー歯科として歯科を開業している。岡山大福クリニック、ハロー歯科は医療法人緑風会に所属し、各健診時に連携が取れるようになっている。

病院自らが目指す品質を決めて自己管理し、医療の質・サービス・患者満足の自発的な向上を図る目的で ISO9001 を平成14年3月に取得した。取得にあたっては、チェック機能、研修プログラム、チーム医療など病院全体のシステムマネジメントが強化された。

3. 建物

三宅医院全体の敷地は約3,500坪で、敷地内に5棟の建物がある。正面三宅医院の建物は鉄骨4階建て、1階には産科婦人科、小児科、内科、不妊専門外来、形成外科、2階にはフェイシャル・エステサロン、病室、LDR (Labor, Delivery, Recoveryの頭文字をとったもので、居住型分娩室のこと)、3階には生命科学研究室、4階にはチャクラ・ホール(各種イベントにて使用)がある。

正面向かって左手の別棟には岡山大福クリニックがはいり、1階では内科、循環器科、消化器科、眼科、皮膚科、2階は皮膚科とホリスティック・ヘルスケアを提供する場として、生活習慣病予防相談、鍼・灸治療、コロンハイドセラピー室、3階は多目的空間としてルネッサンスホールがある。

右手の2階建ての建物にはテナントとし

て美容院、ベビー用品店がはいっているほか、2階には歯科医院(ハロー歯科)があり、従業員の子供の保育や患者の子供の一時託児を受け付ける、たいよう保育園がある。

地域住民の足はほとんど車なので、敷地内に1,500坪、200台分の駐車場を設けているが、職員で100台分くらいは埋まってしまうので、常に駐車スペース確保の課題はある。

4. 規模

(1) 産科婦人科のベット数は19床、年間出産件数は約1,000件、全体で外来患者数は1日平均280~300名で、毎年1日平均外来数が約30名ずつ増加している。

(2) 売上高としては年間13億円、グループ全体としては19億円となっている。職員の総数は、常勤50名、パート60名。人件費はおよそ売り上げの40~42%である。

売り上げ、収益共に毎年右肩上がり成長を続けているが、その要因としてはコアとなる産科婦人科部門での患者数の増加、また、多角化した他部門の収益の向上などによるもので、相乗効果としかけづくりの効果と思われる。

5. 地域における位置付け

地域医療には積極的に関わるというスタンスから、高次医療施設(国立病院岡山医療センター、川崎医大(岡山病院)などと連携をし、また、地域に開かれた場であるように敷地を使ってイベントを催している。その際のイベントはスタッフによるイベント委員

が企画している。

6. 将来的展望

現在は「メディカル・ディズニーランド構想達成のための中期計画」(資料3)の3か年計画の中の第2年次にあたり、「患者様の信頼と感動を得る」ことを目標に、(ア)患者様第一主義の徹底、(イ)医療環境変化への対応と挑戦、(ウ)システムマネージメントの強化(目標管理の徹底)、(エ)人材育成、の4項目を経営理念の柱にしている。

7. 産科婦人科

(1) 安全なお産を目指してマンパワーの充実をはかっており、現在、医療スタッフの数は、常勤の医師5名、非常勤5名、看護師は病棟に13名、外来に17名、常勤助産師は9名、非常勤1名である。

夜間においても、医師が常時2人以上(1人当直、1人オンコール)、助産師2人、看護師2人で対応を整えている。

また、小児科医を常勤させ、国立病院岡山医療センター、川崎医大など高次医療施設との連携体制を整えており、迅速に搬送できるようになっている。



(2) 快適なお産を目指して患者との良好なコミュニケーションをとれるようにスタッフは心掛けており、産婦中心の主体的で自分らしいお産を提案している。インフォームドコンセントの一環として、妊婦にはバースプランを書いてもらい、担当助産師が個々の希望とこだわりに対応し、相談に応じるようにしている。

(3) 正常出産の場合には医療の介入をできるだけ控え、助産師主導・医師立ち合いの出産としている。また、夫・家族の立ち会いについても受け入れている。

また、快適な出産環境を整えるため、LDR(居住型分娩室)を導入している。病室は約80%個室で、原則的に母子同室である。



(4) 産婦へのサービスの一環として、食事においても家族とともにとお祝い膳や、フランス料理、イタリア料理を提供している。また、希望により、フェイシャルエステやアロママッサージも受けられる。

8. 小児科

(1) 小児科は産科婦人科と連携して受診できるように配慮されている。通常であ

れば、産後の1か月健診までを産科婦人科で受診し、その後の3か月健診から最寄りの小児科医を受診する形になり、生後1か月を境に母子を診察する病院が変わるが、当院では、小児科医が産科婦人科医院に常勤する事により、妊娠期より妊婦と小児科医がかかわるようになってきている。



(2) 健診においては、通常の健診の他、歯科の健診、管理栄養士、心理カウンセラーによる相談の受付などのサービスを同時に提供しているので、当院で出産していなくても健診を受けにくる母子も多い。

(3) 電話での診療予約を受け付けており(24時間自動予約システムもある)、必要以上に待たされる事もない。

II. 継続ケアの実際

1. 妊娠期

(1) 健診においては、医師、看護師、助産師、検査技師だけでなく、心理カウンセラー、管理栄養士、歯科医も関わっている。

具体的には、心理カウンセラーによる心理相談(無料)、管理栄養士による栄養相談(無料)を設けている。また、妊婦の歯科

健診は、併設するハロー歯科へ案内している。妊婦健診と同時に受診できるように配慮されている。

(2) 妊婦健診における付加価値サービスとして、3D・4D超音波でのビデオ録画、助産師による個別指導もおこなっている。

(3) 妊娠前期および後期に1回ずつ母親学級を設けている。内容としては、妊娠・出産・育児について(産科医)、妊娠中の歯の健康(歯科医)、妊娠中の日常生活(助産師)、お産の経過と心得(助産師)。

(4) 出産準備クラスとして、管理栄養士が妊娠中の食事について指導し、試食会も設けているマタニティキッチン、助産師がお産の経過と心得・夫の役割について話す両親学級、赤ちゃんのお風呂の入れ方を助産師が指導するベビーバス、そして入院中の生活のガイダンス及び院内見学をする院内オリエンテーションを無料で行っている。また、クラスの間、上の子などの託児も受け付けている。

(5) その他、院内スタッフによる安産体操(マタニティエアロビクス)、マタニティヨーガのクラスもあり、これらはレッスン料1回1,000円となっている。

2. 出産後

(1) 乳幼児健診は小児科で行われ、ここでも医師、看護師、助産師のほか、心理カウンセラー、管理栄養士、歯科医、眼科医が関わっている。

管理栄養士は生後3か月から1歳6か月

までの乳児を対象とし、離乳食の始め方や進め方など、個人に合ったアドバイスを提供し、鉄分強化のレシピなどを配付している。



(2) 生後1か月から6か月の母子を対象にタッチケアの紹介をするカンガルークラブを月に2回開き、赤ちゃんの中樞神経を刺激し発達を促すといわれるベビーマッサージ、タッチングなどのスキンシップを促進している。無料で託児を受け付け、参加費は1回1,000円。定員は30名。母親同士の友だちづくりの場、医院スタッフに相談できる場ともなっている。また、相談から発展して、後述の心理カウンセリングにつなげる例もある。

(3) 小児科医、歯科医、管理栄養士が「子育てのアドバイス」「歯の衛生」「離乳食の進め方・作り方」のポイントを話すひよこクラスも月1回、参加費500円で開いている。毎回の参加者数は約15名程度。

(4) 産後の軟産道の回復を早め、骨盤底筋群の強化などにポイントを置いたアフターバース・エアロビクスを母親の為に毎週1回、無料託児、参加費1回1,000円で開

いている。

3. 心理カウンセリング

(1) 常勤で4人のカウンセラー、非常勤で、精神科医一人と小児神経科医一人が心理相談室に配置されている。当初は不妊、死産、早産などの母親のケアに始まったが、妊娠中や出産後に母親がストレスを過度に抱えるようになっても、自らカウンセリングをうける事は稀なので、妊娠期の健診時にストレスチェック（無料）を全妊婦に実施する事により、カウンセラーの存在を知らせ、顔見知りになる事でその後の相談しやすい環境を作っている。

(2) 出産後は乳児の6か月以上の乳幼児健診時に乳児の神経発達と社会性発達、言語発達を診る（無料）が、その時に母親の育児支援という立場から相談しやすい雰囲気を使って話を聞くようにしている。

(3) 当初は相談というベースで母親と接触を持ち、カウンセリングをするが、カウンセラー、もしくは母親がそれなりに心的症状に自覚を持つようになって、治療という形でカウンセリングをうけるようになる事もある。

(4) 1か月に約180人がカウンセリングをうけるが、そのうち55～60件近くが親子間の問題である。

(5) 妊娠期のカウンセリングの内容として多いのは、上の子などに対してのストレス、未婚、相手家族との関係、社会支援のない事、精神的なサポートのない事、職

場のストレスなど社会的な悩みが多い。

(6) 出産後、育児期のカウンセリングの内容は、母親の育児不安、疲労、孤独感についてのものが一番多く、ついで児童の非社会的な行動、同様に反社会的な行動、そして子供の運動発達や言語発達への不安が多い。

(7) 継続的にカウンセラーが母子に接触する機会を持つ事で、実際、児童虐待の予防、防止にも役立っている。すでに地元の保健所、児童相談所とは過去の事例を通して、職員双方が顔見知りになっており、連携がうまくとれる体勢が出来ている。

(8) 心理カウンセリングも受けられるという評判で大阪、広島などの県外からも患者が受診に来る事もあり、その場合は地域の関係部署を絡めた連携によるフォローを受診後継続的に行う事は難しく、当院としては限界がある。

(9) また、経済的に困窮した人がカウンセリングを実費で受けにくくとは考えづらい状況から、潜在的にはもっと悩んでいる人はいるかもしれない。その点ではカウンセリングと言う職種に対する行政からのサポート、システムづくりが必要と思われる。

4. 歯科医院

(1) 三宅医院の敷地内別棟に、ハロー歯科という歯科医院が併設されており、妊婦健診、乳児健診の際に歯科医師が、歯科健診も同時に行っている。

(2) 母親学級においても歯科医師が参加し、スライドや教育用モデルを用いて母親の口腔衛生への意識を高めている。

(3) 出産での入院中に歯科スタッフ（歯科医と歯科衛生士）が往診し、母親の口腔内虫歯菌チェックと子供の虫歯予防プログラムを案内している。

(4) 乳幼児健診の際に個人的な情報を提供し、フッ素塗布のために小児歯科の受診をすすめているので、その後、母子はハロー歯科を受診するケースが多い。

(5) ハロー歯科の内装には、子供が不安を感じないように親しみのある雰囲気があり、待ち合い室には、専門の保育スタッフが1名おり、母親が一般歯科の診療を受けている間も安心して子供を待たせられるように配慮している。また、乳児を連れした場合のおむつ換え、授乳スペースなどもある。



(6) 母と子の歯科ということで、一般歯科医には敬遠されがちな妊婦（麻酔や薬を使いづらい）や子供（時間がかかるし、泣かれるとうるさい）を周辺の歯科開業医から紹介されるようになった。

(7) 産科医、小児科医との連携で双方向の情報提供が可能となり、補完効果も上がり、医師、患者双方にメリットがある。

5. 幼児期の各種クラス

(1) 出産後も母子もしくは家族で、子供の生まれた病院を訪れる機会を増やす試みとして、バイオリン体験クラブ、キッズクッキング、プチシェフサークルを設けている。

(2) バイオリン教室については、本物の音楽に触れる機会を提供したいとの願いから、外来での演奏を始め、体験教室、おんがくくらぶ、コンサートと発展。各クラス年齢に応じたバイオリンの指導と演奏を聴く体験。1クラス10名を定員とし、参加費は無料。お母さん同士の交流の場となっている。

(3) キッズクッキングは作る楽しさ、食べるたのしさを覚える場として、行事や季節にあったイベントを企画している。3～5歳の子供と親を対象に定員20組で1か月に1回開催している。

(4) プチシェフサークルは上記キッズクッキングの内容に加え、計量や魚の匂クイズなど簡単な栄養のお話で「食」に関心

を持たせる目的で、1か月に1回開催。小学校低学年の子供と親を対象に定員20組。

III. 経営上の特徴

患者主体のサービスの医療を行うという方針を徹底させるため、スタッフは資料2の「三宅医院医療理念・品質方針・品質目標」をカードにし、随時携帯し、毎週月曜日の朝礼では全員で読み上げるなど、意識の向上を図っている。

人材育成面でもいろいろな配慮がなされ、(1)自己管理、自己責任主義の徹底、(2)報告、連絡、相談の徹底、(3)職員満足度の向上（仕事と自分に誇りを持つ）、(4)整理整頓により働きやすい環境を整える、(5)自己啓発につとめ、幅広い知識を習得する事、を目標に掲げている。

アカンパニー制（事業部制）を取り入れ、各事業を独立採算制にしているため、スタッフのモチベーションを高める効果を生んでいる。組織内の人間関係の向上にも取り組み、お互いを認め合うプロ集団として、明るい環境づくりを心掛けている。

委員会活動を取り入れており、CS、防災、給食、薬事、医療事故防止、院内感染防止、キャリアアップ、ハピネスファーム、イベント、など職種を超えて組織を横断し、コミュニケーションを図る形で委員会が存在する。

IV. おわりに- 継続ケアの課題

三宅医院では、産婦主体のお産、お産で

の患者との出会いを通して一生のかかりつけ医となることを理念として医療の幅を産科婦人科、小児科、歯科、不妊治療、皮膚科、眼科、内科、形成外科と広げて来た。その中で、コアとなる出産について、常に安全なお産、快適なお産を追求した結果、地域住民からの理解を得、病院として順調に発展して来ている。

業績的に開業以来 23 年間、右肩上がり成長できたのは、診療科を単に増やして行ったからではなく、産科をコアにして母子の継続医療を主眼にして診療科やサービスの体制を整えて行ったからである。たとえば、ニーズの高い不妊治療を主体とする場合、結果を先走って求めるあまり、検査や採卵などを頻繁に行う事になり、患者側に立っているとは言いがたい状況を作ってしまう。産科を主体とする不妊治療においては、いずれはその患者さんは産科に来院することになるので、結果を焦って、言い換えれば経営的な数字をあげるために、検査や採卵を急かす事はない。

産科は、他の診療科とは決定的にちがひ、命が誕生する場であると言う事から、その場に登場する医師、看護師、助産師はじめスタッフと患者、その家族が喜びを分かち合う体験がコアとなる。コアとなる場の持つ、明るさ、期待感、希望が産科において満たされると、病院全体にその雰囲気波及するという効果がある。元気のスタッフは、患者の立場に立ってさらに明るい病院を創造するべく知恵を絞り、患者は目に見える患部の治療

だけでなく精神的にも元気になって、産科に附随する小児科、歯科へと来院するようになるのである。院長は数字などの業績はそういったサービスの結果に過ぎないとしている。

患者の立場に立ったサービスの一例として、カウンセリングがある。医療と医療の専門の隙き間を埋める為に、患者のニーズに応える形で導入された。母親への周産期での心理カウンセリングは近年には児童虐待の予防的観点からその重要性が高まっているが、収益的には不透明ではあっても、患者のニーズに応える事で、結果的に病院全体の評価が高まり、来院者を増やしている。

虐待については様々なケースに対応して行くうちに地域において保健所、児童相談所とも担当者ベースで人間関係が築かれ、連携が強められている。また、行政には心理的に母親が直接窮状を訴えられない場合でも、当院のカウンセラーが妊娠期から母親の育児支援というアプローチで、母親と顔見知りになり、出産時、乳幼児健診時に接点を持つ事で信頼関係を築き、相談しやすい雰囲気をつくり出している。採算が不透明な中、ニーズに対応してカウンセリングを始めたが、そのケアを求めて岡山県内に留まらず、兵庫、広島、東京から泊まり掛けで来院する事態を生んでいる。しかし、残念ながら、遠方からの患者については、やはりスポット的な対応しかできず、その先の対応としては地元の相談先を紹介するに留まってしまう。

また、虐待などの背景には、経済的な理

由が介在している事が多く、経済的な弱者に対するフォローは行政側からのサポートが必要であろう。カウンセリングなどを例にとると、保険が適用されている訳ではなく、相談したくても、自ら相談料を払って自分の窮状をさらす行動に出る患者は少ない。そこに現在の医療保険体制の限界がある。しかし、深刻な事態が発生してから行政による福祉政策の対象者となるより、予防的対応が優先される事はいうまでもない。

母子にとっての周産期は、やはり生活そのものに他ならない。周産期の母親の不安が、自分や子供の身体的、発達の心配よりも、むしろ、育児不安や疲労、家族内やまわりとの人間関係など、社会的なそれが多し事からもわかるように、医療行為だけでケアが満たされるとは限らない。母子が元気で、まわりからサポートの手を差し伸べた中で母親の不安や心配を取り除き、安心して子供を育てる環境をつくり出す事が周産期ケアのゴールであろう。日本の現状ではほとんどの妊婦が医院で出産をしており、妊婦とより密な接点を持つのはやはり圧倒的に産科婦人科医院である。そこでの母親から提起される課題はプライバシーの範囲に留まらず、いまや社会病理を代弁する現象となっている。対処するには、大規模な病院よりも個人経営による病院の方が、意志決定が早く、機動的に組織を動かす事で、より迅速に対応をくめるが、なかなかその実情やデータが上がってこないのが現状である。病院などの現場と行政の窓

口となる保健所、児童相談所との情報交換など、連携を強めるなどの対応が今後必要であろう。

また、医療技術を高めて行くことと同時に、いかに住民のニーズに応える形で地域に根ざしていくかを模索する事で地域住民からの支持を得、来院患者を増やして行くことができる。その際、どのようなしかけづくりをして行くか、三宅医院では、委員会活動を取り入れる事により、スタッフの横の連絡を良くしながら活発な意見交換をして、実行に結び付けている。

個人医院として三宅院長が医院の方向性を示してはいるが、医院管理の実務的な事については、プロを登用する事でアカウントビリティのある経営を行っている。結果として銀行などからのサポートも受けやすく、事業展開もしやすいのではないかと推測される。スタッフが、院長を信頼し、業務の遂行にやりがいと希望を感じているということがインタビューを通じても感じられ、委員会活動など本来の職域から幅を広げて活動する事に対しても、職員が意欲的に取り組んでいる。医院側もその意欲に応えるようにマンパワー強化、休日・夜勤など職場条件の向上を配慮している点も注目したい。

以上

分担研究報告書

地域における出産ケアモデル施設の調査報告

調査日： 平成15年12月10日～11日

調査先： 春日助産院 （福岡県）



<助産院概要>

院長：大牟田喜香氏

副院長：大牟田智子氏

スタッフ：シフト3名、調理1名

年間約120名（H15年度はリフォーム工事のため80名に減少）

うち囑託医搬送は年間平均3名、高度医療機関搬送は平均2.5名（2%）。

1. 春日助産院の理念

現在、日本では99%の女性が病院で出産している。「お産で何かあったら困るから・・・」、「漠然と安心だから」といった理由で病院を選ぶ人が多いからだ。それは何よりも安全ということが前提にあるだろう。もちろん病院は妊婦が安全に出産できるよう医療の最先端を駆使してお産をフルサポートすることを目的にしている。

しかし、お産は本能のもとでおこなわれる自

然な営みであり、母児共に正常な状態で単胎・頭位なら分娩台のないフラットなところで、自由な体位で薬や器具など使わず、本能に導かれて出産するのが本来の姿である。こうした不必要な医療介入のない自然なお産ができる助産院でのお産も年々増え続けている。

春日助産院では女性が本来持っている自然の力を引き出し、妊婦一人ひとり、その人に合ったきめ細やかなケアを行なっている。本人主体の子生み子育てが出来るよう妊娠・出産・母乳・育児長い期間、継続的に最大限にサポートしているのである。ほとんどの女性は自然に産む能力を持っている。妊娠期からこころと体の調和を図り健康レベルを上げることが出産の安全性を高くし、出産時の医療介入率を減らすことができる。この健康レベルを上げる一環として、身体作りのサポートでは陰陽のバランスを考えた穀物菜食や

マタニティー・ヨガで自分の身体を見直した根底からの体力作りをする。心のサポートでは一人ひとり1時間以上の健診で妊婦の心や身体の悩みを聞き、適切なアドバイスをして妊婦の不安感を取り除く。必要ならばその人にあった代替療法（アロマセラピー・ホメオパシー・鍼灸・イトオテルミー・薬草など）を用いてホメオスターシスを高めていく。このような妊娠中のセルフコントロールが、穏やかなお産・心豊かな育児に繋がっていくのである。そしてこのサポートは産後や児が3才になる頃まで、本人の意思で当院を来院、または電話で相談する限り続く。妊婦が自分の身体と向き合い心豊かにすることは、出産や育児だけでなく、その女性の生き方をより充実したものにするのである。そして、やがては家族や社会に向けられ周りのものについて影響を与えていくだろう。

極端な医療拒否(否定)は助産理念の概念からの外す。妊産婦と児の命や健康を第一に考え、異常が発生した場合その時の状態により囑託医(開業医)や近郊第3次高度医療機関(大学病院)に搬送する。また、妊婦や産婦に精神的な問題が起こった場合、心理カウンセラーを紹介するネットワークもある。

そして当院は自然分娩や母乳育児のサポートだけではなく、妊娠前の性教育や健康教育から、果ては更年期の健康アドバイスまで多岐に渡る。また院長がワーキングマザーへの支援を目的に、当院の隅で赤ちゃんをボランティアで預かることもあった。それをきつ

けに始めた保育サポートも今では社会福祉法人になり、3カ所の保育園を経営している。

女性の一生をその時のニーズに合わせてケア、サポートするということは根気がいることだ。同時にすべてペイバック出来るものではない。健診料や分娩・入院費など規定料金が明確に記されているもの以外のほとんどが当院の負担となる。当院のイベントものなどの参加費は徴収したとしても、とても賄えない程、低額に設定された料金である。それにも関わらず女性の身体の講習会や育児相談会など参加対象が院内だけではなく、同料金で地域にも提供している。当院の問題点をあえて挙げるならばこの点であろう。ただ筆者が当院を取材し、出産場所に当院を選んだ理由をMC受講後の妊婦にインタビューした。すると、当院主催の講習会に参加した際に助産院の存在や良さを知り、子供が出来たらとか今度また妊娠したら当院でお産したいという意見が多く目についた。言い換えるとイベントそのものは赤字であっても、当院のプロモーションになっているということだろう。

図1参照

2. お産の費用

1) 助産院内分娩の場合(6日間助産院滞在の場合)

・初産婦	33万～40万円
・経産婦	30万～36万円

・リピーター 28万～34万円

2) 嘱託医の健診

健診料 7,700円

(そのまま Dr へ支払い)

月1回、嘱託医が春日助産院を訪問し、周産期を通して最低2回(必要に応じて回数増)の健診を行う。春日助産院より車で1時間ほどかかるため来院できない妊婦に、当院で場所を提供し、中村 Dr に健診してもらうようにしている。ケースによっては他院への紹介も行っている。

3) 助産婦の健診

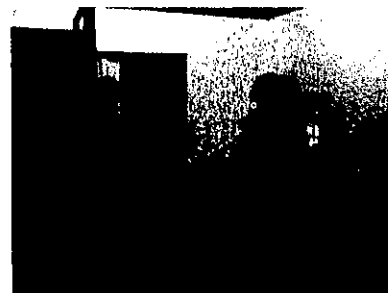
健診料 4,000円

通常は助産師が健診。通院間隔や健診内容は病院とほぼ同じ。一人ひとり1時間以上かけて妊婦と応接している。その中でマイナートラブルなど体調の変化、心の変化、家族歴、生活歴、食歴、両親(義含む)や夫が妊婦とお産や母乳に対する考えが合致しているかなどを聞き出す。時には夫や両親も一緒に健診に来てもらい、不必要な医療介入のない自然出産は安全性が高いこと。妊婦が主体的にお産に関わっていると実感できることにより子育てにも意欲的になり、ひいては積極的に生きるという力が湧いてくる事を話すのである。こうして家族ぐるみで新しい命の誕生を喜び、分かち合い、理解することにより妊婦本人がマタニティーライフを快適に穏やかに過ごせるよう努力している。薬や器具

に頼らない自然なお産はそう容易いものではない。生む力を最大限に発揮できるよう無茶な生活や食事をやめ、お産のためのホルモンがきちんと出るように規則正しい生活を勧めている。

また、異常の早期発見のために超音波診断を行っている。助産師が妊娠確認のため初期に1度と出産予定日確認のため12週頃に行い、中村 Dr が20週前後と30週前後にルーチンとして超音波診断を行っている。その他、必要に応じて各種検査もする。

3. 分娩時のケア





偶然、取材に行った日にお産があり、産婦の許可を得て見学することが出来た。陣痛促進のため、産婦は院内を歩き回り助産師はそのあとを黒子のように付いて回っていた。そして夫・娘に見守られる中、四つんばいで出産した。このように24時間態勢で入院後の産婦を助産師が常にサポートするのである。分娩台はなく、昼部屋でのアクティブバース。昼部屋（分娩室）の近くに水中出産が可能な常設バスタブがあり、陣痛中のリラクゼーションにも使用している。照明は薄暗く、癒し系の音楽を流し、部屋を暖かくして産婦がなるべくリラックスできる環境を作る。この空間の何処で産んでも、どんな姿勢でも構わないといった雰囲気があった。

また、アロマテラピー・ホメオパシー・鍼灸・イトオテルミー・薬草（会陰の伸びを良くするため紫雲膏を塗るなど）など代替療法を用いてホメオスターシスを高め、出産をより安全に心地良く穏やかなものになるようサポートしている。

4. 入院中のケア

陰陽のバランスを考えた穀物菜食中心の入院食。身体を冷やす陰性食物（果物や乳製

品など）や乳腺に負担をかける脂ものを避け、母乳が順調に分泌するための食事を提供している。母乳育児を重視し生後4日までに児の体重が10%増以上を目標に食事面だけではなく、母乳マッサージやアロママッサージ、イトオテルミー、ホメオパシーなど必要に応じて根気よくサポートしている。沐浴も家族を含めて指導する。

児が強い黄疸の場合はホメオパシー療法で改善を図る。黄疸に効くレメディィーをぬるま湯に溶かし、上澄みを赤ちゃんの口にしめらせる程度で3～4時間で黄疸が軽減されるという。それを毎日繰り返すと次第に黄疸が消えてくる。2年前からホメオパシー療法を始めて以来、1例も黄疸で病院搬送が無いという。もしもの場合のため、国立こども病院か囑託医と提携を結んでいる。

5. 母乳支援

完全母乳率100%を目標に支援している。過去3年間で混合哺育になったのは2例のみ。WHO&UNICEFの母乳育児成功のための10ヵ条にならい、完全母乳になるよう綿密に丁寧にサポートする。まずは産後30分以内に児に母乳を含ませること。人工乳首を含む母乳以外の水分や栄養を与えないこと。そして欲しがるときに欲しがらだけの授乳。母子同床。授乳時の抱き方、乳首のくわえさせ方、人工乳首を与えないなどきめ細かく指導する。なんらかの理由で病院搬送になり母子分離が避けられなく人工乳になっても、退院

後は通院して貰い時間をかけてなるべく完全母乳に移行できるよう継続的にサポートする。そのケアは母乳マッサージや食事のアドバイス、褥婦の不安を取り除くためのメンタルサポート、代替療法など様々である。

6. 春日助産院の妊娠・育児支援プログラム

1) 心理カウンセラーの紹介

紹介料 無料

妊婦や産婦に精神的な問題が起こった場合、国立九州大学付属病院の母子メンタルクリニック（吉田 Dr）を紹介。2週間のデイケアプログラムでメンタルサポートを行うか、産後の場合当院で産褥入院（又は通院）してもらい同大学病院に通院しながら様子を見る。母乳に影響しない薬剤を始め、タッチングケア、代替療法などを用いる。

2) アロママッサージ

対象 入院者全員。

外来の妊婦や院外の妊婦でないクライアントも希望により施行。

入院者 無料
外来妊婦 3,000円
非妊婦のクライアント 4,000円～
6,000円

（身体の範囲により価格変動）

先生の報酬 利益の90%

アロマセラピストが入院中の褥婦全員に全身アロママッサージを施行。身体が癒され、産後の緊張をとり、母乳率を上げる。

3) 産褥入院の受け入れ

料金 8,000円/日

希望があれば、受け入れる。他の助産院や病院からの受け入れも O.K.

4) 退院後の継続ケア

1ヶ月健診 5,000円

（母親3,000円/児2,000円）

1ヶ月健診前に母子や母乳など何らかのトラブル又はフォローが必要であれば、いつでも来院、相談に応じる。早期退院の場合は当院の方から電話でフォロー、必要であれば来院して貰う。

1回目は無料、2回目以降乳児健診として1回2,000円。ガスリー採血は入院費に含まれる。

5) 保育園経営

ワーキングマザーのための継続ケアとして当院が母体となり、春日中央保育園（定員190名・保育士28名・昭和51年設立）、春日東保育所（定員60名・保育士14名・昭和62年設立）、白水保育所（定員130名・保育士20名・平成8年設立）を経営（全て認可保育園）。

社会福祉法人・春日福祉会理事長 大牟田喜香氏（智子氏の母）

春日中央保育園は春日市で初の民間委託の保育園として昭和51年に認可、平成13年4月には日本財団の助成を受け、新園舎完

成。

6) お食事会 (春日助産院で出産する妊婦必修クラス)

対象 春日助産院で出産する妊婦とその家族

開催日 毎月第1・2木曜日 12:00-14:00 ークラス5名定員。

参加費 1,500円

体作りの基本として正しい食のあり方を学び実践能力を育てる。食事を改善して健康レベルを上げ、お産や母乳に生かす。

7) お産教室 (春日助産院で出産する妊婦必修クラス)

対象 春日助産院で出産する妊婦とその家族

開催日 毎月第2日曜日 10:00-12:00

参加費 1,500円

分娩台ではない自然な形でのお産を学ぶ。陣痛や赤ちゃんの回旋や妊婦の体や心の起きる変化を知り「自分らしいお産」とは何かを引き出す。

8) マザリングクラス (春日助産院で出産する妊婦必修クラス)

対象 春日助産院で出産する妊婦とその家族

開催日 毎月第2水曜日 14:00-16:00

参加費 1,500円

生まれたての赤ちゃんのことや最初の一

週間に起こる変化を知り、母乳育児の利点とその方法を学ぶ。

9) おびいわい

対象 妊婦 20週前後の妊婦さんとその家族

開催日 毎月戌の日 14:00-15:00

参加費 無料

日本古来よりの伝統「腹帯」の由来と効用、巻き方を学び、生命誕生のお祝いをする。日本独自の「腹帯」は腰痛や身体の冷え防止に最適である。また腹帯という日本独自の文化を伝承しなければいけないという思いから開催。腰痛のある妊婦には腰痛解消のための独自の巻き方を教える。お茶とお茶菓子つき。さらしの腹帯持参。

10) マタニティーアロマ講座

開催日 毎月第4火曜日 14:00-16:00

参加費 1,500円

先生への報酬 90%

植物の精油の力を心と体の自然治癒力の改善に活かすことを学ぶ。治療師用の高品質のオイルを紹介し上手な使い方を学ぶ。アロマ本来の癒しを身体で感じ、リラックスする方法の1つとして紹介。

11) マタニティー・ヨガ

対象妊婦限定

開催日 毎月第3水曜日 14:00-16:00

参加費 1,500円

先生への報酬 10,000円/日

ヨガは安産の体作りに最適と考え開催。深い呼吸によって体の緊張を取り除き、心も身体もリラックスすることを経験してもらう。身体を柔軟にすることは心も柔軟になり、マタニティーライフが楽しくなりお産にもいい形で影響する。

12) マクロランチ

開催日 平日毎日 11:00-13:00
定員 2~3名
予約受付時間 9:00-14:00
参加費 500円

マタニティーライフを健康で快適に過ごしてもらうため、陰陽のバランスを考えた穀物菜食のランチを提供する。マクロビオティックというと手間がかかり、面倒なイメージだが、誰でも出来る気軽な調理ということを知ってもらうために開催。午前の検診を終えた妊婦がランチを食べて帰れるように配慮している。食生活を変えることにより、マイナートラブルの解消など身体の中が少しずつ変化していくことに気づく妊婦も多い。

13) 育児相談会&ベビーマッサージ

対象 春日助産院で出産した母子とその家族 (院外でも可)
開催日 毎月第4水曜日 14:00-16:00
参加費 1,500円
先生への報酬 66%

(1人1,500円の内1,000円が報酬)

月齢にあわせた育児相談会。母乳や離乳食相談、予防接種などそれぞれのエビデンスに則り育児についてアドバイスする。後半はアロマを使ったベビーマッサージを体験してもらい、タッチケアの重要性を学ぶ。

14) 白川先生による相談会

対象 春日助産院で出産した母子とその家族 (院外でも可)

開催日 2月14日(土) 毎月1回開催
参加費 3,500円
報酬 85%

(1人3,500円の内3,000円が報酬)

九州産業医科大学病院小児科の白川嘉継Drによる子供の発達、多方面からの病氣治療のアプローチ、投薬について、育児で気になることなど何でも相談。先生を囲んでのグループ形式の相談会。

NICU担当の小児科医・白川Drは児の救命救済だけではなく、カンガルーケアの実践を通して母親・新生児の心身の安定性を尊重し母子関係を重視している。児が1,500g以上になり安定していて、母親が赤ちゃんを傍に置きたいことを強く願う場合、カンガルーケアの良さや方法を十分理解させた上で児を退院させる。乳児虐待・ネグレクト防止に力を入れ、臨床心理士的なサポートをしている。

・不定期企画

15) プリージングクラス(安産呼吸クラス)

対象 春日助産院で出産する妊婦と
その家族 (院外でも可)

開催日 1月13日(火)

参加費 1パート: 3,000円

パートI 10:00-12:00

呼吸と感情の関係について

パートII 13:00-15:00

呼吸の実践

先生への報酬 90%

呼吸と感情の関係を学び、母子が幸福感で
満たされたお産のために役に立てる。

16) みな子の料理教室

対象 春日助産院で出産する妊婦
(院外でも可)

開催日 1月22日(木) 10:00-13:00

参加費 1,500円

当院調理担当でマクロビオティック研究
家の浦田美奈子氏が穀物菜食の実習・試食を
行う。家に帰ってもすぐに役立つ穀物菜食の
簡単な作り方を教える。

17) アレルギー勉強会/丹羽療法

対象 春日助産院で出産した母子と
その家族

参加費 無料

会場 無料で場所を提供

暮らしと健康社主催。当院で生まれたアレ
ルギー児10名にニワーナ(抗酸化・穀物加
工食品)を紹介して効果絶大だったところか
ら勉強会を開催。開発者の京都大学医学博

士・土佐清水病院々長の丹羽靱負 Dr が当院
を訪問し講義する。専門は膠原病等だがこの
脱ステロイド治療法で患者の圧倒的な支持
を受けている。

丹羽 Dr は脱感作療法ではほとんどの人に
アレルギー反応が出てしまう事を多くの臨
床で経験する。そしてヒトに悪影響を及ぼす
活性酸素を抑制することでアレルギー反応
を抑える事を研究・発見し、ヒトが本来持つ
ている自然治癒力を高め活性酸素を抑える
ニワーナを開発した。当院ではその有効性を
グループワークしながら勉強する。福岡市に
丹羽氏の元で臨床研究した Dr がクリニック
を開業しているため、当院のアレルギー児は
そこへ紹介している。(紹介は無料)

18) 頭蓋仙骨治療(クレニオセイクラル・ セラピー)(年2回開催)

対象 春日助産院で出産する妊婦ま
たは母子とその家族

治療費 大人10,000円

乳児5,000円

会場 無料で場所を提供

身体のリズムを整え、身体の歪みを治すこ
とで身体的・感情的トラウマを解放へ向かわ
せる治療法を施行。アメリカ・メイン州在住
でクレニオセイクラル・セラピストの藤牧経
乗氏が短期滞在し治療する。妊婦健診で身体
の不調が気になる人など、希望者に申し込ん
でもらう。当院では、来院の妊婦に心地良く
お産をしてもらうためや障害児のケアサポ